

1 単元名 マイ・スーパーマーケットをつくろう ～お客さんが来るヒミツをさぐれ！～
教材名 「店ではたらく人」

2 単元の目標

- 地域の人々の販売の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとする。
(①社会的事象への関心・意欲・態度)
- 地域の人々の生産や販売の仕事の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現することができる。
(②社会的な思考・判断・表現)
- 観点に基づいて見学したり、資料を活用したりして、地域の人々の販売の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取ることができる。
(③観察・資料活用の技能)
- 地域の人々の販売に見られる仕事の特色や国内の他地域などのかかわりを理解することができる。
(④社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 児童観 (男子*人, 女子*人, 計*人)

[平成29年9月14日実施]

	調査内容	児童の実態																	
既	① 海ぞいの地域には、なぜ人が集まるのか。	調べたことと関連付けて複数の根拠を基に解答した *人 調べたことと関連付けて一つの根拠を基に解答した *人 関連のないことを根拠に解答した *人 無答 *人																	
未	② よく買い物に行くお店はどこか。(複数回答)	店名① *人	店名② *人	店名③ *人	店名④ *人	店名⑤ *人	店名⑥ *人	店名⑦ *人	店名⑧ *人	店名⑨ *人	店名⑩ *人	店名⑪ *人	店名⑫ *人	店名⑬ *人	店名⑭ *人	店名⑮ *人			
	③ そのお店に行く理由は何か。(複数回答)	買いたい物が売っている *人	家から近い *人	おいしい物が売っている *人	あまり人が多くない *人	曜日毎に売っているものが変わる *人	色々な物が売っている *人	安い *人	色々なお店が入っている *人	便利 *人									
	④ お店の人は、どんな工夫をしていると思うか。(複数回答)	種類毎に分けて見つけやすくする *人	ねだんのつけかた *人	ていねいな言葉づかいで話す *人	レジをたくさん用意する *人	ものがなくならないようにする *人	まちがえないようにする *人	試食コーナーを作る *人	物を傷つけないようにする *人	特に工夫していない *人	たくさんの種類の品物をおく *人	お客さんのためになることをする *人	急いで会計をする *人	安心して買い物ができるようにする *人	駐車場を広くする *人	おいしく作る *人	期限が切れていたら交換する *人	いろいろなところから物を仕入れる *人	無答 *人
	⑤ お店の人は、どんな気持ちで働いていると思うか。	がんばろう *人	よろこんでもらいたい *人	たくさん売れてほしい *人	大変だ *人	忙しい *人	楽しんでほしい *人	無答 *人	うれしい *人	たくさんの人に来てほしい *人	お金がほしい *人	満足してほしい *人	疲れる *人	笑顔でいよう *人					

本学級の児童は、既習の単元「わたしのまち みんなのまち」の学習において、自分たちの住んでいる身近な地域や鹿嶋市について、特色ある地形や土地利用の様子などについて、観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考える学習を行った。その中の「海ぞいの地いきには、なぜ人が集まるのだろうか。」という課題で解答させたところ、上記の①のような実態がわかった。このことから、本学級において、社会的事象の特色について考える力は十分であるとは言えない。

本単元で学習する事項については、多くの児童が地域において買い物の経験があり、店の名前もよく知っていることが分かった。また、店に行く理由や店の人がどんな工夫をしているかについても、自分なりに考えて意見を書くことができる児童が多かった。一方で、③と④における個々の回答を見てみると、店に行く理由（消費者の願い）と店の人の工夫（販売者の工夫）は、関連付けられているとは言えないことも分かった。

以上のことから、販売の仕事に関わる人々は消費者の願いを踏まえて様々な工夫をしていることや販売の仕事によって自分たちの生活が支えられているという、本単元における社会的事象の特色について考える力を育てることが重要であると考えます。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容(2)「ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること」、「イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」を受けて設定している。

本教材は、販売の仕事の例としてスーパーマーケットを取り上げている。地域の人々の消費生活について、販売者の工夫だけでなく消費者の工夫も取り上げながら調べることで、販売の仕事に関わる人々は消費者の願いを踏まえて様々な工夫をしていることを考えるのに適している。また、発展して様々な販売に関わる活動を調べることで、販売の仕事によって自分たちの生活が支えられていることを考えるのに適した教材である。

(3) 指導観

本単元では、地域社会の社会的事象の特色について考える力を育てていきたい。具体的には、「① 販売の仕事に関わる人達は、消費者の願いを踏まえて様々な工夫をしていることを考えることができる。」「②販売の仕事によって、自分たちの生活が支えられていることを考えることができる。」を目指す児童の姿として位置づける。そのために、「関連付け」「総合」の思考ツールを活用したワークシートを用いる。個人で学習するとともにクラスで一つの思考ツールを作成し、単元の学習の進行とともに完成させていく。

第一次では、児童に地域のスーパーマーケットの駐車場の資料を見せ、そこから出た疑問や気付きを基に、「スーパーマーケットにたくさんのお客さんが来るヒミツをさぐろう。」という単元の学習課題を設定し、学習したことを基に自分たちだけの「マイ・スーパーマーケット」を作ることを確認する。次に、学習課題に対して児童が考えた予想を基に、単元の学習計画を立てる。

第二次では、実際にスーパーマーケットを見学し、事前に立てた予想を基にメモをとる。見学してわかったことを基に、スーパーマーケットにたくさんの人が買い物に来るわけを考える。その際、「関連付け」のワークシートを使い、販売者の側の工夫と消費者の側の願いを関連付けることができるようにする。次に、スーパーマーケット以外の販売の仕事について考える際には、「総合」のワークシートを使い、地域の様々な販売の仕事によって自分たちの生活が支えられていることを考えることができるようにする。

第三次では、これまでに学んだことを生かし、消費者の願いに応え、地域の人々の生活を支える「マイ・スーパーマーケット」を考え、ポスターにまとめる活動を行う。

これらの学習活動を通して、「①販売の仕事に関わる人達は、消費者の願いを踏まえて様々な工夫をしていることを考えることができる。」「②販売の仕事によって、自分たちの生活が支えられていることを考えることができる。」ようにし、地域社会の社会的事象の特色について考える力を育てていきたい。

4 単元の評価規準

①社会的な事象への 関心・意欲・態度	②社会的な 思考・判断・表現	③観察・資料活用の 技能	④社会的事象についての 知識・理解
ア 地域の販売の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。 イ 販売の人々の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。	ア 地域の販売の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 イ 人々の販売の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。	ア 観点に基づいて見学したり、資料を活用したりして地域の人々の販売の仕事について必要な情報を集め、読み取っている。 イ 調べたことをポスターにまとめている。	ア 地域には販売の仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。 イ 地域の人々の販売に見られる仕事の特色や国内の他地域などとの関わりを理解している。

5 単元の指導計画 (14時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点 (・)・評価 (◎)・(評価方法)
第一 次	1	○ 提示された資料を基に学習課題を作り、単元の見通しをもつ。 スーパーマーケットにたくさんのお客さんが来るヒミツをさぐり、自分たちだけの「マイ・スーパーマーケット」をつくらう。	・ スーパーマーケットの駐車場の写真や、事前のアンケートをまとめたものを提示し、それらを基に話合いができるようにする。 ◎ 資料から、販売の仕事について気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、学習課題を考えている。 (②ア 発表・ワークシート)
	2	○ 学習計画を立てる。	・ 学習課題に対する児童の予想や事前のアンケート結果、スーパーマーケットの広告を基に、学習計画を立てることで、単元の見通しを持たせる。 ◎ 学習課題に対する予想を基に、単元の学習計画を立てている。 (②ア 発表・ワークシート)
第二 次	3	○ 近所のスーパーマーケットを見学	・ 児童の予想を基に、見学する具体的な観点を考えることができるようにする。また、必要な観点がでない時は、教師側から提示できるようにする。
	4	・ する計画を立て、見学のメモを作る。	◎ 様々な観点からお店の工夫を予想し、見学の計画を立てている。 (②ア 発表・ワークシート)
	5	○ 見学のメモを基に、スーパーマ	・ 店の工夫について、気付いたことや疑問に思ったことをメモすることができるようにする。
	6	・ ケットの見学を行い、働く人やお客さんにインタビューを行う。	◎ スーパーマーケットでの仕事の様子に関心をもち、見学やインタビューを行っている。 (①ア 観察・見学メモ) ◎ 観点に基づいて見学し、スーパーマーケットの仕事について必要な情報を集めている。 (③ア 観察・見学メモ)
	7	○ 2つのスーパーマーケットを見学して分かったことを、観点別に整理する。	・ 見学のメモを基に、「品物」「サービス」「はたらく人」「お客さん」「その他」の観点に分けて整理し、付箋に書くことができるようにする。 ◎ 見学のメモを付箋に書き、観点別にまとめている。 (③ア 付箋・発表)
	8	○ スーパーマーケットの「品物」の工夫について考え話し合う。	・ 広告や売り場の写真を掲示することで、見学での経験を思い出しながら学習を進めることができるようにする。 ◎ スーパーマーケットでは、品物を国内外の産地から仕入れていることや、品質のよい品物を売っていることを理解している。 (④イ 発表・ワークシート)
	9	○ スーパーマーケットの「サービス」について考え話し合う。	・ サービスの内容がわかる写真を掲示することで、見学での経験を思い出しながら学習を進めることができるようにする。 ◎ サービスとお客さんの願いを関連づけて、お店と自分達の生活との関わりを考えようとしている。 (①イ 発表・ワークシート)
	10 (本 時)	○ スーパーマーケットで「はたらく人」と「お客さん」について考え話し合う。	・ これまでに習ったことやインタビューの内容をふり返りながら、販売者の工夫とお客さんの願いを結びつけることができるようにする。 ◎ スーパーマーケットで働く人達は、消費者の願いを踏まえて様々な工夫をしていることを考えている。 (②イ ワークシート)
	11	○ スーパーマーケットの「その他」の工夫について考え話し合う。	・ 前時までの観点から外れるものを選び、「地域貢献」の観点からの工夫を取り扱う。 ◎ スーパーマーケットでは、地域や地域に住む人々のためにさまざまなことに取り組んでいることについて考えることができる。 (②イ 発表・ワークシート)
	12	○ スーパーマーケット以外の販売店について考え話し合う。	・ アンケート結果をふり返りながら、自分達がスーパーマーケット以外に利用している多くの販売店のよさを考え、自分達の生活に結びつけることができる

	13	○ 学習したことを基に、「マイ・スーパーマーケット」を考え、ポスターにまとめる。	<p>ようにする。</p> <p>◎ 販売の仕事によって、自分達の生活が支えられていることを理解している。</p> <p>(④ア ワークシート)</p> <p>・ PRしたいキーワードを入れた見出しを書ながら簡潔にまとめ、補足説明もできるようにする。</p> <p>◎ 学習したことをポスターにまとめている。</p> <p>(③イ ポスター)</p>
第三次	14	○ 「マイ・スーパーマーケット」の発表会を行い、単元のふり返りをする。	<p>・ 自分達の考えたスーパーマーケットのよさを聞き合い、販売の仕事と自分達の生活の関わりについて改めて考えることができるようにする。</p> <p>◎ 学習したことを基に、「マイ・スーパーマーケット」をPRしている。</p> <p>(②イ 発表)</p>

6 本時の学習

(1) 目標

販売者の工夫と消費者の願いを関連付けてまとめる活動を通して、スーパーマーケットで働く人々は、消費者の願いを踏まえて様々な工夫をしていることを考えることができる。

(2) 準備・資料

学習計画表，見学時の写真，ワークシート，掲示用思考ツール，実物投影機，モニター

(3) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点（・）・評価（◎）・（評価方法）
つかむ	1 本時の学習課題と学習の進め方をつかむ。 スーパーマーケットで「はたらく人」と「お客さん」のつながりをまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を振り返りながら、本時の学習課題を確認する。 ・ 本時の活動の流れを確認し、見通しをもって活動できるようにする。
考える	2 「はたらく人の工夫」と「お客さんの願い」について書かれた付箋を思考ツールにまとめる。 (1) パーソナルワーク (2) グループワーク (予想される児童の反応) ・ 品物のある場所やねだんをわかりやすく表示する。 ・ 品物を見つけやすくしてほしい。 ・ 曜日毎に、イベントを行っている。 ・ 様々なサービスがあるといい。 ・ 新鮮なものを売り場に並べる。 ・ 品質のよいものを食べたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付箋は前時まで記入しておく。 ・ 付箋に書いた情報を操作しながら、つながりを可視化することで、販売者の工夫と消費者の願いを関連付けることができるようにする。 ・ これまでに学習した「品物」や「サービス」の観点からも考え、多様な意見を出すことができるようにする。 ・ パーソナルワークで課題に取り組むことができない児童には、前単元での「作る人の工夫」と「食べる人の願い」の関係を想起させるようにする。 ・ グループワークでは、お互いのワークシートにアドバイスし合うとともに、クラス用の思考ツールに貼り付ける大きな付箋に記入する。
深める	3 各グループからの発表を基に、クラスの思考ツールを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループからの意見をまとめることで、クラスの意見として集約し、販売者と消費者のつながりを共通理解することができるようにする。
まとめる	4 本時のまとめをする。 スーパーマーケットではたらく人は、お客さんのねがいに合ったいろいろなくふうをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学習してきた販売者の工夫が、自分たちお客さんのためであることに気付くようにする。 ◎ 販売者の工夫と消費者の願いを関連付けてまとめる活動を通して、スーパーマーケットで働く人々は、消費者の願いを踏まえて様々な工夫をしていることを考えることができる。 (②イ ワークシート)
ふりかえる	5 本時の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習から、「マイ・スーパーマーケット」に生かしたい工夫という視点で振り返りを行うように助言する。 ・ 次時は「その他」の工夫について学習することを伝え、見通しをもたせる。